

十二月十八日

世田谷村日記を書くようになって、お蔭様で一つだけ良い事が起きたのは駄文雑文を書く速力が少しだけ速くなった事だ。私の思考の速力は話す速力程速くはない。書く速力に近い。指で文字を書いている速度が私の脳味噌のスピードの力に近い。だから私の対談、座談の類はほぼ皆失敗している。他の人の話す速度に私の脳味噌の力、特に速力がついていけないのだ。筆談による座談の会の企画が、もしあれば私の人並み外れて遅い思考の速力は機を得るだろうに。この日記を書き始めてほぼ一年経つ。我ながら良く続いている。何故続けているのか、それ程確固たる理由はないのだが、何処かで誰かが読んでくれるだろうという気持ちがあつて、その誰かは知らねどもそういう気持ちだけがこの日記を続けさせている。私のかすかな表現、コミュニケーション意欲のあらわれだ。インターネットに公開する事を前提とした日記を記録するのは勿論、私にとって初めての事だ。まだ何処まで書いて良くて、どこは秘すべきなのか規準を得ることは出来ていない。編集の丹羽君からはこんな事迄書いていいんですかとたしなめられた事だつてある。そのバランスは段々習得してゆけば良い。しかし、この日記をつける事が駄文雑文を書く速力を早めた事以上に、私の日常生活のリズムを刻むようになってしまった事も確かだ。もの忘れの激しい時代になった。あつた事、起きた事全て忘れられてゆくし、忘れる。情報化時代特有の現象だろう。

朝すつからかんに空いた一階の地面で模型写真の撮影。やっぱり自然光は良い。日経新聞連載の第一回を送る。

コンタックスが故障した。佐藤健に取られたバカチョンライカも壊れたと言う。私のもらい物の古いライカはどうやら壊れそうではない。電子部品が組み込まれたものは壊れやすいのではない。一度故障すると修理代も高い。十二万円だったかのバカチョンライカの修理代が四万円だと言う。それで佐藤健は昔私のモノであつたライカを何処かへ捨てたらしい。お前さんの酔庵に在るアノ、ガンダーラ仏を早く俺のところへ捨てると言いたい。

今日は自分の時間が在るから何がしかのスケッチをしよう。椅子の再試作品送られてくる。前より良いが、背中のところは難あり、もう一度やり直してもらふことにする。2作目にかかる。夕方佐賀の椎藤さん来宅。東大の鈴木博之研究室からFAX入り、伊藤毅先生の御長男が交通事故で逝去されたとの事。二十一才の息子を亡くすとは、伊藤君の心中察するに余りある無念さである。なぐさめる言葉も有りようが無いが明日は通夜に行く。